

平成26年度

旭市財務諸表

(基準モデル)

【速報版】

【新地方公会計制度に基づく財務諸表（財務4表）整備の概要】

新地方公会計制度とは、「現金主義・単式簿記」を特徴とする従来の地方公共団体の会計制度に対し、「発生主義・複式簿記」などの企業会計手法を導入しようとする取り組みです。これにより、地方公共団体が所有する資産及び負債といったストック情報や、減価償却費や引当金などのコスト情報を把握し、より実態に即した財政状況を明らかにするものです。

本市では、この制度に基づく「財務4表」（①貸借対照表（BS）、②行政コスト計算書（PL）、③純資産変動計算書（NW）、④資金収支計算書（CF））を、平成20年度決算から作成しています。

【作成モデル】

「財務4表」の作成にあたり、総務省は、企業会計手法を全面的に採用した「基準モデル」と、既存の決算統計の数値を活用した「総務省方式改訂モデル」の2種類の作成方式を示しており、本市では、資産状況をより的確に把握できる「基準モデル」を採用しました。

【対象とする会計の範囲】

本来は、連結対象団体（一部事務組合・広域連合・地方公社・第三セクター等）までを含めた整備が求められていますが、当該団体との調整はもとより、組合構成市町との調整が必要となることから、現段階では、連結対象団体を除いた、市の会計の範囲（一般会計、特別会計及び企業会計まで合わせた単体ベース）までとしています。

連結ベース	単体ベース	一般会計（普通会計）		
		特別会計	国民健康保険事業特別会計（事業勘定）	介護保険事業特別会計
			国民健康保険事業特別会計（施設勘定）	下水道事業特別会計
			後期高齢者医療特別会計	農業集落排水事業特別会計
	企業会計	水道事業会計	病院事業会計	
連結対象団体（一部事務組合、広域連合、地方公社、第三セクター等）				

【作成基準日】

財務4表の作成基準日は、会計年度の最終日である平成27年3月31日としています。

なお、出納整理期間（平成27年4月1日から5月31日まで）の出納については、作成基準日までに終了したものと取り扱っています。

【財務4表の種類】

1. 貸借対照表（BS）

地方公共団体がどれくらいの資産や負債を有するかについての情報を示すもの。

2. 行政コスト計算書（PL）

地方公共団体の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すもの。

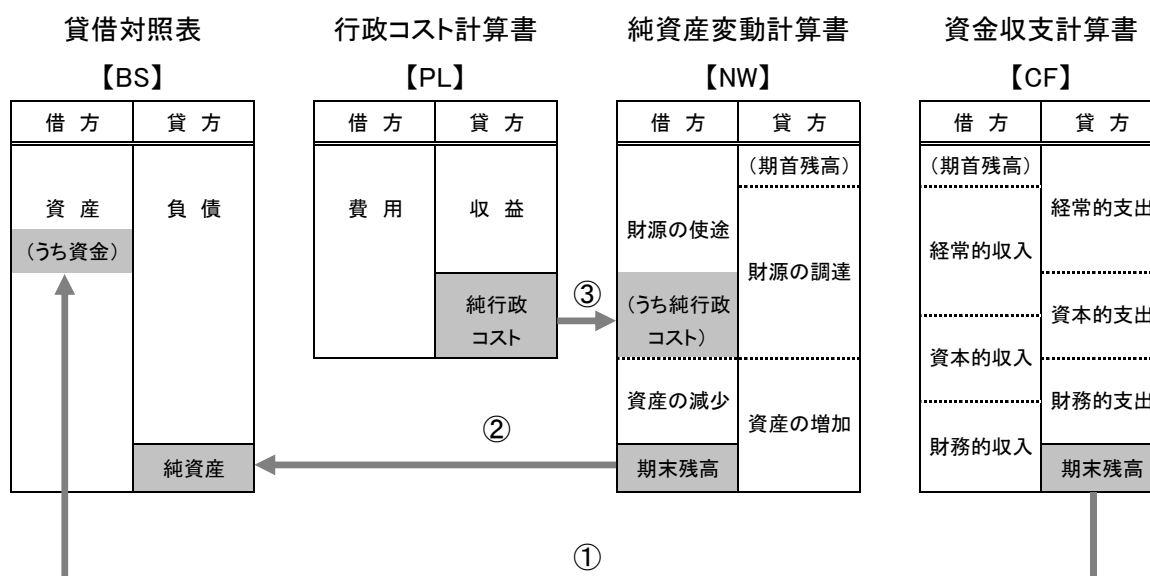
3. 純資産変動計算書（NW）

地方公共団体の純資産、つまり資産から負債を差し引いた残りが、一会計期間にどのように増減したかを明らかにするもの。

4. 資金収支計算書（CF）

一会計期間の資金の増減を表しており、地方公共団体の資金利用状況及び資金獲得能力を明らかにするもの。

【財務4表の相互関係】



① 【BS】の資産のうち「資金」の金額は、【CF】の期末残高と対応する。

② 【BS】の「純資産」の金額は、資産と負債の差額として計算されるが、これは【NW】の期末残高と対応する。

③ 【PL】の「純経常費用(純行政コスト)」の金額は、費用と収益の差額として計算されるが、これは、【NW】の財源の使途のうち、「純経常費用への財源措置」と対応する。

出典：総務省『新地方公会計制度実務研究会報告書』 図3 財務書類4表構成の相互関係より

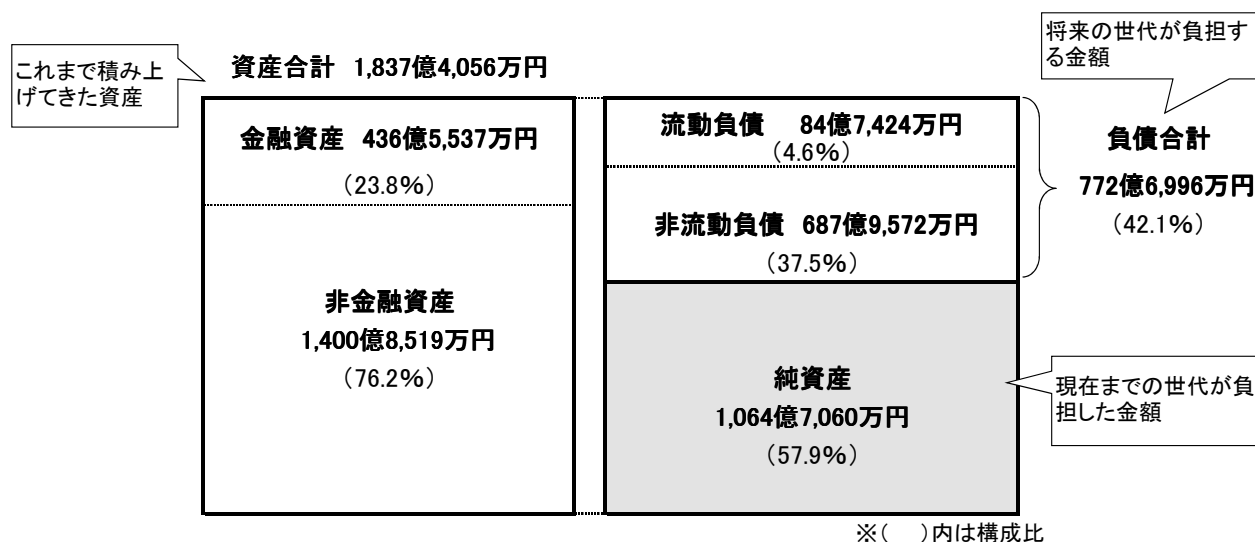
【旭市の財務4表】（単体ベース）

1. 貸借対照表(BS)

貸借対照表は、会計年度末時点における市の資産や借金の状況を一目でわかるようにしたものです。

【資産の部】は、現金や債権などの金融資産と、土地・建物などの非金融資産を記載しています。

【負債の部】は、これらの資産を築くための借入金などが、また【純資産の部】は、国県支出金や税金など過去に使われた財源を記載しています。



(単位:千円)

科 目 名	平成26年度	平成25年度	増 減
【資産の部】			
1. 金融資産	43,655,371	41,559,772	2,095,599
(1)資金 現金及び預金	① 16,201,471	16,023,661	177,810
(2)金融資産(資金を除く) 投資及び出資金、基金など	27,453,900	25,536,111	1,917,789
①債権	8,283,614	7,862,177	421,437
②有価証券	3,150	3,150	0
③投資等	19,167,136	17,670,784	1,496,352
2. 非金融資産	140,085,185	144,801,043	△ 4,715,858
(1)事業用資産 庁舎、保育所、学校、病院など	72,878,663	74,652,927	△ 1,774,264
①有形固定資産	72,208,896	74,135,911	△ 1,927,015
②無形固定資産	411,343	186,348	224,995
③棚卸資産	258,424	330,668	△ 72,244
(2)インフラ資産 道路、公園、上下水道など	65,673,207	66,688,010	△ 1,014,803
(3)繰延資産	1,533,315	3,460,106	△ 1,926,791
資産合計 A (1+2)	183,740,556	186,360,815	△ 2,620,259
【負債の部】			
1. 流動負債 翌年度償還予定の市債など	8,474,242	7,584,325	889,917
2. 非流動負債 市債、退職手当引当金など	68,795,721	63,207,958	5,587,763
負債合計 B (1+2)	77,269,963	70,792,283	6,477,680
【純資産の部】			
純資産合計 C	② 106,470,593	115,568,532	△ 9,097,939
負債・純資産合計 D (B+C=A)	183,740,556	186,360,815	△ 2,620,259

① 「(1)資金」は、資金収支計算書(CF)の「期末資金残高 G」と一致します。

② 「純資産合計C」は、純資産変動計算書(NW)の「期末純資産残高 F」と一致します。

概 要

・市民1人当たりの資産と負債（人口67,819人 平成27年4月1日現在）

【資 産】	270万9千円
【負 債】	113万9千円
【純資産】	157万円

本市の平成26年度末現在の【資産】の総額は1,837億4,055万6千円、【負債】の総額は772億6,996万3千円となり、資産から負債を引いた【純資産】は1,064億7,059万3千円となりました。

【資産】の内訳は、金融資産（現金・預金、投資及び出資金、基金など）が436億5,537万1千円、非金融資産（公共施設等の土地建物、機械器具や物品、道路や公園、上下水道などのインフラ）が1,400億8,518万5千円となっています。

【負債】の内訳は、資産形成のための発行した市債や、引当金などで、うち1年以内に償還等が見込まれる流動負債が84億7,424万2千円、1年超の残存期間がある非流動負債が687億9,572万1千円となっています。

【純資産】は、本市の資産形成において、現在までの世代が負担した分を表します。負債と純資産の割合をみると、負債が42.1%、純資産が57.9%となっており、現在までの世代が既に負担した割合が、将来世代が負担する割合を上回っています。

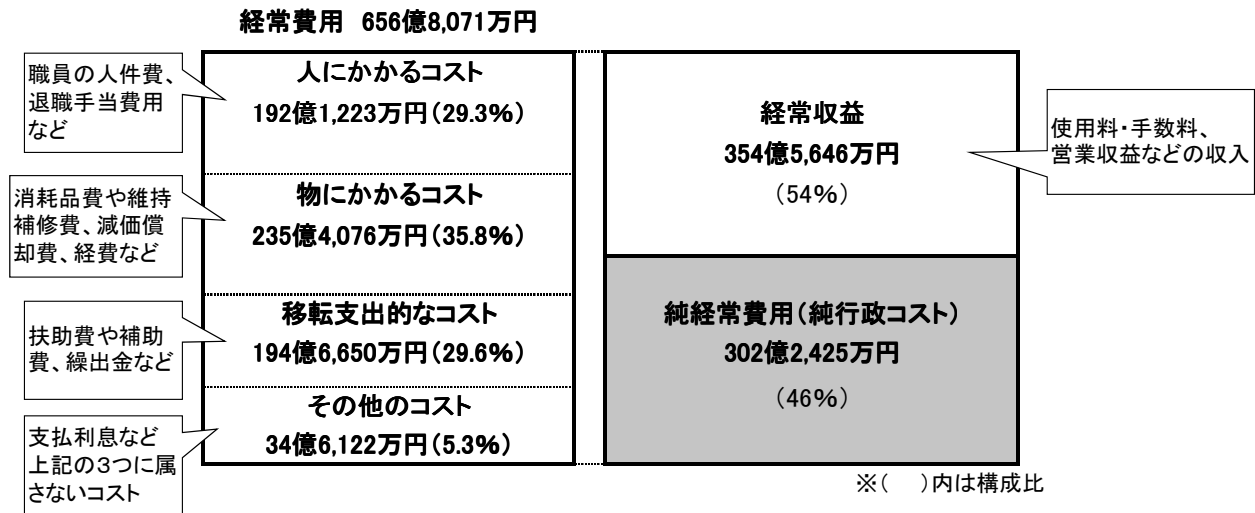
2. 行政コスト計算書(PL)

行政コスト計算書は、市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料などの収入を示すものです。

【経常費用】は、毎会計年度、経常的に発生するもので、人件費や物件費などの経常業務費用と、扶助費や補助費などの移転支出を記載しています。

【経常収益】は、毎会計年度、経常的に発生する使用料・手数料などの収益を記載しています。

経常費用合計から経常収益合計を差し引いたものが、当該年度の【純経常費用(純行政コスト)】となります。



(単位:千円)

科 目 名	平成26年度	平成25年度	増 減
【経常費用】			
1. 経常業務費用	46,214,201	46,511,861	△ 297,660
(1)人件費 職員給与、退職手当費用など	19,212,224	19,116,088	96,136
(2)物件費 消耗品費、維持補修費、減価償却費など	17,541,444	18,397,328	△ 855,884
(3)経費 業務費、委託費など	5,999,317	5,936,935	62,382
(4)業務関連費用 公債費(利払分)など	3,461,216	3,061,510	399,706
2. 移転支出	19,466,504	18,546,306	920,198
(1)他会計への移転支出 繰出金など	0	0	0
(2)補助金等移転支出 負担金、補助金など	13,407,745	12,966,621	441,124
(3)社会保障関係費等移転支出 扶助費など	3,536,198	3,399,179	137,019
(4)その他の移転支出 補填及び補償金、寄附金など	2,522,561	2,180,506	342,055
経常費用合計(総行政コスト) A (1+2)	65,680,705	65,058,167	622,538
【経常収益】			
1. 経常業務収益	35,456,461	35,991,591	△ 535,130
(1)業務収益 使用料・手数料、営業収益など	33,695,749	34,324,750	△ 629,001
(2)業務関連収益 受取利息、営業外収益など	1,760,712	1,666,841	93,871
経常収益合計 B	35,456,461	35,991,591	△ 535,130
純経常費用(純行政コスト) C (A-B)	③ 30,224,244	29,066,576	1,157,668

③ 「純経常費用(純行政コスト)C」は、純資産変動計算書(NW)の「(1)純経常費用への財源措置」と一致します。

概 要

・市民1人当たりの行政コストなど (人口67,819人 平成27年4月1日現在)

【経常費用】	96万8千円
【経常収益】	52万3千円
【純経常費用(純行政コスト)】	44万6千円

平成26年度は、【経常費用】が656億8,070万5千円、【経常収益】が354億5,646万1千円で、経常費用から経常収益を引いた【純経常費用(純行政コスト)】は302億2,424万4千円となりました。

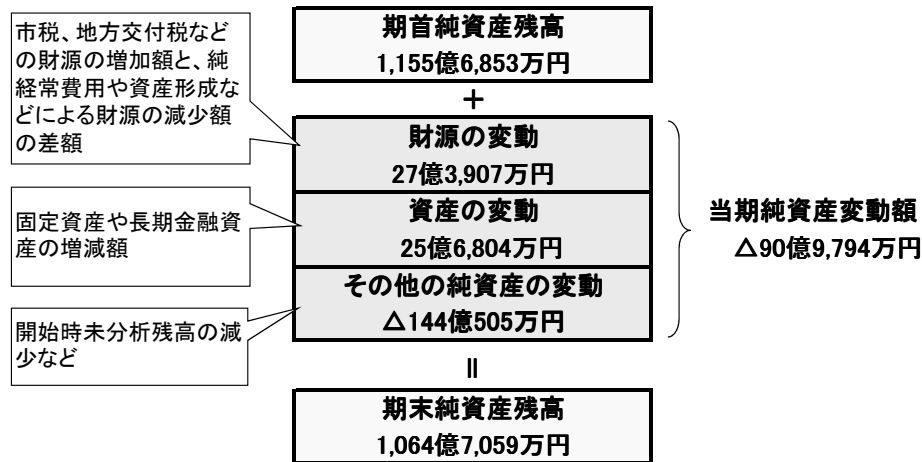
【経常費用】の内訳は、物件費や経費などの「物にかかるコスト」が235億4,076万1千円(35.8%)と最も大きく、続いて人件費などの「人にかかるコスト」が192億1,222万4千円(29.3%)、社会保障給付としての扶助費や、補助金などの「移転支出的なコスト」が194億6,650万4千円(29.6%)、市債の支払利息など「その他のコスト」が34億6,121万6千円(5.3%)となっています。

【経常収益】は、市が提供する行政サービスなどの対価としての使用料・手数料や、公営企業における営業収益などです。本市では、公営企業である病院事業会計の収益の規模が300億円以上と特に大きいため、市全体では総行政コストに比べて、純行政コストが半分以下(46.0%)となっています。

ただし、病院事業を除いた場合の経常収益と純経常費用の割合は、およそ1:10の割合となっています。

3. 純資産変動計算書(NW)

純資産変動計算書は、市の純資産(資産から負債を差し引いた残り)が、一会計期間にどのように増減したかを明らかにするものです。



(単位:千円)

科 目 名	平成26年度	平成25年度	増 減
【財源変動の部】A (2-1)	2,739,066	6,257,685	△ 3,518,619
1. 財源の使途 純行政コストや資産形成への財源措置など	41,276,737	40,125,358	1,151,379
(1)純経常費用への財源措置	③ 30,224,244	29,066,576	1,157,668
(2)固定資産形成への財源措置	6,664,810	4,748,143	1,916,667
(3)長期金融資産形成への財源措置	1,974,050	3,660,192	△ 1,686,142
(4)その他の財源の使途	2,413,633	2,650,447	△ 236,814
2. 財源の調達 市税、地方交付税、国県補助金など	44,015,803	46,383,043	△ 2,367,240
(1)税収	8,541,481	8,382,742	158,739
(2)社会保険料	3,949,144	3,667,381	281,763
(3)移転収入	23,875,196	24,758,277	△ 883,081
(4)その他の財源の調達	7,649,982	9,574,643	△ 1,924,661
【資産形成充当財源変動の部】B (1+2+3)	2,568,040	1,877,957	690,083
1. 固定資産の変動 土地・建物などの増減	2,073,265	412,374	1,660,891
(1)固定資産の減少	4,591,545	4,374,728	216,817
(2)固定資産の増加	6,664,810	4,787,102	1,877,708
2. 長期金融資産の変動 出資金、貸付金、基金などの増減	579,606	1,465,583	△ 885,977
(1)長期金融資産の減少	1,394,444	2,194,609	△ 800,165
(2)長期金融資産の増加	1,974,050	3,660,192	△ 1,686,142
3. 評価・換算差額等の変動 資産の再評価等による増減	△ 84,831	0	△ 84,831
(1)評価・換算差額等の減少	508,537	0	508,537
(2)評価・換算差額等の増加	423,706	0	423,706
【その他の純資産変動の部】C (1+2)	△ 14,405,045	△ 2,630,584	△ 11,774,461
1. 開始時未分析残高の増減	△ 1,956,987	△ 2,630,584	673,597
2. その他純資産の変動	△ 12,448,058	0	△ 12,448,058
当期純資産変動額 D (A+B+C)	△ 9,097,939	5,505,058	△ 14,602,997
期首純資産残高 E	115,568,532	110,063,474	5,505,058
期末純資産残高 F (D+E)	② 106,470,593	115,568,532	△ 9,097,939

② 「期末純資産残高F」は、貸借対照表(BS)の「純資産合計 C」と一致します。

③ 「(1)純経常費用への財源措置」は、行政コスト計算書(PL)の「純経常費用(純行政コスト) C」と一致します。

概 要

・市民1人当たりの純資産変動額（人口67,819人 平成27年4月1日現在）

【純資産変動額】 △13万4千円

本市の期首純資産残高（平成25年度末現在）は1,155億6,853万2千円で、期末純資産残高では1,064億7,059万3千円となり、一会計期間で90億9,793万9千円の減となりました。

内訳をみると、【財源変動の部】では、税収や地方交付税、国県補助金などの財源の調達（440億1,580万3千円）が、純行政費用（純行政コスト）や固定資産形成などへの財源措置額（412億7,673万7千円）を上回り、27億3,906万6千円のプラスとなっています。

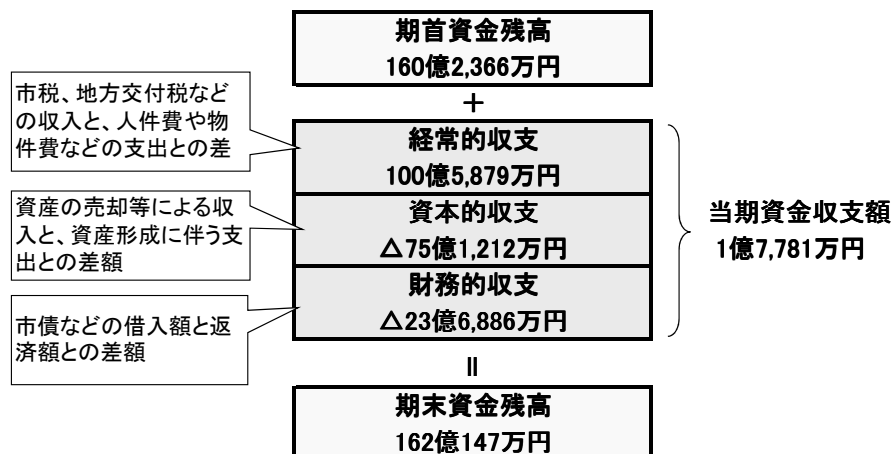
【資産形成充当財源変動の部】では、固定資産や長期金融資産等の額（90億6,256万6千円）が、減価償却などによる減少額（64億9,452万6千円）を上回り、25億6,804万円のプラスとなっています。

また、【その他純資産変動の部】では、開始時未分析残高（貸借対照表作成開始時に財源充当等が不明確とした資産）の減少により、19億5,698万7千円のマイナスとなっています。

なお、【その他純資産の変動】では、124億4,805万8千円のマイナスとなっていますが、これは地方公営企業会計制度の変更に伴い、病院事業会計及び水道事業会計において、勘定科目の移動やみなし償却制度の廃止等を行ったことによるものです。

4. 資金収支計算書(CF)

資金収支計算書は、市の資金収支の状態(資金利用状況及び資金獲得能力)を明らかにすることを目的としています。



(単位:千円)

科 目 名	平成26年度	平成25年度	増 減
【経常的収支区分】			
1. 経常的収支 A ((2)-(1))	10,058,793	11,328,094	△ 1,269,301
(1)経常的支出 人件費、物件費、補助費など	62,310,146	61,157,522	1,152,624
①経常業務費用支出	42,843,642	42,611,216	232,426
②移転支出	19,466,504	18,546,306	920,198
(2)経常的収入 市税、地方交付税、業務収益など	72,368,939	72,485,616	△ 116,677
①租税収入	8,536,522	8,360,686	175,836
②社会保険料収入	3,890,536	3,630,620	259,916
③経常業務収益収入	36,066,685	36,082,713	△ 16,028
④移転収入	23,875,196	24,411,597	△ 536,401
【資本的収支区分】			
2. 資本的収支 B ((2)-(1))	△ 7,512,122	△ 5,449,895	△ 2,062,227
(1)資本的支出 資産形成のための支出	8,932,553	8,887,567	44,986
①固定資産形成支出	6,664,810	4,748,143	1,916,667
②長期金融資産形成支出	2,267,743	4,139,424	△ 1,871,681
③その他の資本形成支出	0	0	0
(2)資本的収入 資産売却などによる収入	1,420,431	3,437,672	△ 2,017,241
①固定資産売却収入	25,987	355,914	△ 329,927
②長期金融資産償還収入	1,394,444	2,544,458	△ 1,150,014
③その他の資本処分収入	0	537,300	△ 537,300
基礎的財政収支 C (A+B)	2,546,671	5,878,199	△ 3,331,528
【財務的収支区分】			
3. 財務的収支 D ((2)-(1))	△ 2,368,861	△ 2,152,178	△ 216,683
(1)財務的支出 市債の元利償還など	5,509,737	5,356,657	153,080
①支払利息支出	971,847	1,043,636	△ 71,789
②元本償還支出	4,537,890	4,313,021	224,869
(2)財務的収入 市債の借入など	3,140,876	3,204,479	△ 63,603
①公債発行収入	2,972,000	3,036,500	△ 64,500
②借入金収入	0	0	0
③その他の財務的収入	168,876	167,979	897
当期資金収支額 E (C+D)	177,810	3,726,021	△ 3,548,211
期首資金残高 F	16,023,661	12,297,640	3,726,021
期末資金残高 G (E+F)	① 16,201,471	16,023,661	177,810

①「期末資金残高G」は、貸借対照表(BS)の「(1)資金」と一致します。

概 要

本市の期首資金残高(平成25年度末現在)は160億2,366万1千円で、期末資金残高では162億147万1千円となり、平成26年度の資金収支額は1億7,781万円となりました。

収支の内訳をみると、【経常的収支区分】では、市税や地方交付税、業務収益などの経常的収入(723億6,893万9千円)が、人件費や物件費などの経常的支出(623億1,014万6千円)を上回り、100億5,879万3千円のプラスとなっています。

一方、【資本的収支区分】では、資産形成に伴う資本的支出(89億3,255万3千円)が、資産売却などの資本的収入(14億2,043万1千円)を上回り、75億1,212万2千円のマイナスとなっています。

経常的収支と資本的収支を合計した【基礎的財政収支(※)】は、25億4,667万1千円のプラスとなりました。

市債などの借り入れや返済状況を表した【財務的収支区分】では、資産形成に伴う市債の借入れなどの財務的収入(31億4,087万6千円)が、市債などの返済額(55億973万7千円)を下回り、今年度は23億6,886万1千円のマイナスとなっています。

※基礎的財政収支(プライマリーバランス)

経常的収支と資本的収支の合計が、基礎的財政収支です。これが、市の財政状況を示すプライマリーバランスと呼ばれるものです。「市債などの借入を除く歳入」と「過去の市債の元利償還を除く歳出」の差が、プラス(黒字)であれば、その年の政策にかかる経費が借金以外の収入で賄われていることとなり、財政が健全であることを示します。